

# ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年4月13日～2015年4月19日】

[当地報道をもとに作成]

平成27年4月28日

在ジョージア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### 【アブハジア】

##### ▼ハジバ「大統領」がモスクワを訪問(17日)

・東洋学アカデミーにてアルジンバ元「アブハジア共和国大統領」について講演。露メディアの代表者らと会談。

### 2. 外 政

##### ▼デンマーク、ポーランド、スウェーデンの外相がジョージアを共同訪問(14日)

・リデゴー・デンマーク外相、スヘティナ・ポーランド外相、ヴァルストローム・スウェーデン外相がジョージアを共同訪問。ベルチャシヴィリ外相と会談し、5月にリガで行なわれる東方パートナーシップ首脳会議の意義、首脳会議への期待、連合協定および査証自由化の効率的な実施計画などについて議論した。

・「ベ」外相は通商、経済、文化、教育の分野での各国との活発な関係を高く評価し、ジョージアの主権・領土一体性およびEU・NATO加盟の追求に対する支持、NATO・ジョージアの実質的パッケージの実施プロセスへの関与などについて各国外相に感謝を述べた。

・EU各国外相はジョージア政府が実施した改革、東方パートナーシップの枠内でジョージアが達成した前進を肯定的に評価し、NATOおよびEUの平和維持活動へのジョージアの参加に対して感謝を述べた。

・「ベ」外相と「ス」ポーランド外相は「トビリシ会議」の設立に関する覚書に署名。同会議はジョージアのEU・NATO加盟の追求に対するジョージアとポーランドの協力のフォーマットとなる。

##### ▼インターポールがアデシヴィリ元法相の国際手配を取り下げ(14日)

・ジョージア検察が複数の件に関連して手配しているアデシヴィリ元法相について、インターポールは国際手配を取り下げたことを発表。ジョージア検察によれば、取り下げの理由は、ある国が「ア」元法相を難民として認めため、「ある国」はハンガリーと見られている。

・2013年1月のジョージア検察の要請に基づき、インターポールは2013年11月に国際手配を決定した。「ア」元法相は最近はウクライナに滞在していると報じられており、2月にもジョージア検察はウクライナに「ア」元法相の送還を要請したが、拒否された。

##### ▼大統領がラトビアを訪問(16日)

・ラトビアのベルズィンシュ大統領、ストラウユマ首相、ムルニエツェ国会議長と会談。ラトビア大学で講演。

・「ベ」ラトビア大統領との会談では、5月に行なわれるリガでの東方パートナーシップ首脳会議に焦点が当てられたほか、EUとの連合協定およびDCFTAの実施、さまざまな分野での二国間協力の推進などについて議論。ジョージアの被占領地域の状況やウクライナ情勢を含む地域の安全保障環境についても意見を交換した。

・「ベ」ラトビア大統領は、首脳会議でジョージアに相応しい評価が与えられることを望んでおり、また、EU・ジョージアの査証自由化プロセスを支持していると述べた。

### 3. 内 政

##### ▼国外での不法武装集団への参加に関する法案をめぐる議論(17日)

・国会は内務省が提出した、不法な武装集団への参加やテロ行為を目的とした外国への渡航などを刑事犯罪とする刑法改正法案の第一読を審議。

・改正案は、「人種、宗教、国籍、民族、社会、言語その他の集団の間の不和」を引き起こすことを目的とした「暴力行為の呼びかけ」に、それが「明白で直接的かつ現実的な脅威」をもたらす場合、最大4年の禁固刑を科すと規定している。また、このような呼びかけを法人が行なった場合には、法人は罰金とともに解散・活動停止を命ぜられる。この規定について、青年法律家協会、Transparency International Georgia、公正な選挙と民主主義のための国際社会(ISFED)など10のNGOが、表現の自由を制限するために政府によって濫用されるおそれがあり、採択されるべきではないとの共同声明を発表。

### 4. 経 済

##### ▼2015年3月の工業製品生産者物価指数(15日)

・国家統計局が発表。前月比1.0%低下、前年同月比7.2%上昇。

##### ▼ジョージア・ロシア間の定期航空便の拡大(15日)

・ジョージア経済・持続的発展省によれば、ジョージア・ロシアの航空当局は両国間の航空便の本数を増やすことで合意した。2008年に両国間の航空便が止まって以降、2014年10月にトビリシ＝モスクワ間の直行便が再開されたが、今回の合意によりジョージアの航空会社はジョージアからサンクトペテルブルク、サマラ、エカテリンブルグ、ソチ、ロストフ・ナ・ドヌー、ミネラヌルイエ・ヴォディへの定期航空便を運行することが可能になった。ロシアの航空会社もトビリシのほかクタイシ、バトゥミへの定期航空便を運行できる。トビリシ＝モスクワ間は週に最大21便(冬季18便)。

### ▼2015年第1四半期の国際送金額(16日)

・ジョージア国立銀行の資料によれば、2015年第1四半期の国外からジョージアへの送金額は249.6百万ドルで前年同期比22.8%減。国別では多い順にロシア88.3百万ドル(前年同期比43.6%減)、ギリシャ40.2百万ドル(同17.8%減)、イタリア26.3百万ドル(同9.4%減)、米国22.1百万ドル、トルコ17.2百万ドル、イスラエル6.7百万ドル、スペイン5.9百万ドル、ドイツ5.8百万ドル、ウクライナ4.9百万ドル。

### ▼財務相が訪米(16日-21日)

・ハドゥリ財務相が訪米。  
・17日、チャクラバルティ欧州復興開発銀行(EBRD)総裁と会談。ジョージアとEBRDの協力および5月にトビリシで行なわれるEBRD総会について協議。「チャ」総

裁によれば、昨年ジョージア経済のさまざまな分野においてEBRDは2億1500万ユーロ相当のプロジェクトを実施した。

・「ハ」財務相は本田多数国間投資保証機関(MIGA)長官とも会談。

・18日、ギュスライン世界銀行運輸・情報通信技術グローバル・プラクティス部局長、シュワルツ世界銀行グローバル・インフラストラクチャー・ファシリティ代表と会談。

・19日、ヤレスコ・ウクライナ財務相と会談。両国間の貿易・経済関係の拡大について議論。